

第69回（令和4年度）矢野賞受賞者の概要

たかはし みきお
高橋 幹雄（38歳）
倉敷市連島町



経営内容：野菜 （れんこん 10ha）

高校卒業後、民間企業や農協でキャリア形成を図った後、平成25年に実家のれんこん農家に就農した。就農当初から環境にやさしい農業を実践し、県内れんこん農家で初のエコファーマー認定を受けている。

就農後は、経営面積を順調に拡大し、県内トップクラスの収量と高品質生産を実現するとともに、れんこん産地の維持拡大にも貢献している。また、自ら顔の見える生産者として積極的にPRに取り組むなど、連島れんこんのブランド化に尽力している。

地域では、小学校でのれんこん栽培体験等、食農教育に力を入れる他、若手れんこん生産者グループを結成するなど産地活性化に大きく貢献している。

とくやま しょう
徳山 彰（36歳）
井原市美星町



経営内容：畜産 （経産牛 110頭、育成牛 50頭）

大学で経済学を学んだ後、平成20年に酪農を営む実家に就農した。就農後、県下でいち早く搾乳ロボット等を導入し、ロボットデータを活用した飼養・生産管理で、県内トップクラスの出荷乳量を維持しながら、ゆとりある家族酪農経営を実践している。

自給飼料生産に意欲的で、河川敷での大規模牧草栽培や、飼料の独自配合によるコスト低減に取り組むなど、足腰の強い酪農経営モデルとして高い注目を集めている。

青年農業者クラブ活動では、直売所活性化プロジェクトに取り組むなど地域振興に努めている。

地域では、地元小中学生の食農教育を積極的に実施するほか、県内の搾乳ロボットの普及拡大など、地域農業の発展に尽力している。

ばば かつのり
馬場 克典（39歳）
真庭市三崎



経営内容：果樹 （ぶどう 68a）

海上自衛隊を除隊後、兼業で行っていたぶどう栽培に魅力を感じ、平成25年にぶどう専業で経営を開始した。基本に忠実な栽培技術と、綿密な観察力で高品質なぶどう生産をしている。

品種や作型の組み合わせを工夫し、地域トップクラスの栽培面積を実現するとともに、作業の効率化により雇用労力に頼らない経営は、真庭地域のぶどう経営モデルとなっている。

青年農業者クラブでは、役員としてプロジェクト活動を盛り上げるなど活躍している。

地域では、ぶどう部会の役員として、部会の技術レベル向上に貢献している。また、就農アドバイザーとして新規就農者受入体制の整備に尽力するなど、その人柄と高い技術力で産地活性化に大きく貢献している。

※年齢は令和4年4月1日現在